座間支援学校 学校運営協議会 議事録			開催日	令和６年 10 月 16 日（水）
会議名	令和６年度　県立座間支援学校　第２回学校運営協議会			
開催方法	・書面　・Teams　・散開　(・集合)　・その他（　　）			
時間	開始時間	９：45	終了時間	11：55
場所	会議室		人数	17 人

１　校長あいさつ

今日はお忙しい中お越しくださりありがとうございます。今年も猛暑でしたが、10 月半ばに入り猛暑は和らぎました。しかし、季節の変わり目という時期で児童生徒、教職員共に体調を崩す方が何名か出ています。今週末には中学部の修学旅行も控えており、体調管理に気を付けていきたいと思います。今日は中間評価をご報告し、委員の皆様に忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

２　会長あいさつ

年３回という限られた学校運営協議会の 2 回目である。今年度、県教委より学校運営協議委員に対するアンケートがあり、回答したがその後何の音沙汰もなかった。問い合わせたところ、集計中とのことでまだ報告が来ていない。第 3 回までに報告をしてほしいと依頼している。県が学校運営協議会に何を期待しているのか？　学校運営協議委員は学校運営に直接関わる責任のある役割と考えている。座間支援学校の教育活動が充実するために、今日も活発な意見を出し合えると良いと思う。

３　部会活動報告

〇切れ目ない支援部会より

・（委員）講話の補足説明。地域の人たちが誰も排除されない社会を作るなかで、学校がどのような役割を果たしたら良いのか、という前提のもとに話をした。県が 1984 年から取り組んできていることである。

・（副校長）この国の教育の歴史を踏まえてお話をいただいた。社会のための人間を作るという教育から、子どもたちのための社会をつくる、一緒に生きるための教育に変遷した。学校教育の原点に立ち返ることができたお話だった。目指すべきインクルーシブな社会づくりが見えてきた。

・（委員）私も聞きたかった。海外のインクルーシブ教育についてレクチャーを受けているが、日本が目指す社会について知りたい。インクルーシブはすごく大切なこと。理学療法の学会でも話題に挙がっている。→前回の記録を委員の皆様にお渡しする。

・（委員）支援学校を卒業し、社会に出たらうつになった脳性麻痺の方がいる。地域を変えなくてはと感じている。

・（委員）第 2 回にどのようなアイディア、アクションが集まるか。自分たちにできることから進めていけると良い。

・（委員）小学校の支援級でも様々に交流活動を行っている。保護者には様々な考えの方がおり、地域の学校ではなく特別支援学校にどうしても行きたいという方もいる。保護者への啓発も必要と考える。

・（委員）自分が小学校の頃は支援級があったが、接する機会はなかった。修学旅行の時に一部屋に一人支援級の児童が入った。どう接したらよいか分からなかったと今思い返している。少しでも距離が縮まって分かり合えると良いと思う。
・（委員）子どもと関わる事業所の連絡会で部会の話をした。自分たちは地域の資源として、子どもたちが地域で育つための役割を担っていると考えている。どのくらい学校と連携ができるのかが重要だが、連携に困難がある学校もある。年 4 回の連絡会のなかで、どうしたら学校とうまく連携して子どもたちの成長を見守れるか、継続的に取り組みたいと考えている。行政に入ってもらうことも必要である。
・（支援連携部長）センター的機能として地域の学校に伺うとき、福祉と連携が必要と思われるケースがあり、橋渡しができると良いと思いながらも難しさがある。小中学校の学校というシステム、文化がある程度わかっている身として福祉、医療との連携を進めたいと思う。

〇防災部会より
・部会のねらいとしては、地域における防災について両隣の小学校、高等学校も含めて考えていきたいと思っている。
・（委員）その目的は教育活動にどう関わるのか？→児童生徒も日頃の訓練等を通して防災の意識、自分の身を守ることや避難後の過ごしについて学習をしている。
・（委員）部会でも地域の実情を申し上げたが、避難訓練の実施はまだ少ない。皆原南自治会ではまだ訓練を行っていない。連合自治体のなかでは桜田、皆原南２は行っていると聞いており、自治体の中で温度差がある。本校の 2 階は、厨房から出火した際の避難については西側の階段が使えないなど課題が残る。二次避難所、福祉避難所について今後詰めていきたいと思う。
・（委員）階段避難車とは？10 月 29 日是非参加したい。→階段昇降機の現物を見たことはないが、キャタピラーで階段を昇降するものであり同じ構造かと思われる。有効であれば、団地も含めて地域として活用したい。
・（委員）階段昇降機は講習を受けて免許を取得する。今は肢体不自由児の在籍はないが、今後に備えて知っておきたい。
・（委員）センター的機能の情報提供として市内小学校、中学校にも周知できると良いのでは？→周知を行う。
・（委員）階段昇降機は本人にとって不安、緊張があり混乱を起こす可能性がある。作業療法士と連携して緊張を和らげる取り組みが必要となる。→教員も緊張する。何度も練習しておきたいと思う。
・（委員）ここは二次避難所という想定なのか？想定は地震、洪水なのか？この近辺の地盤の特性から液状化も留意する必要がある。→市よりそのように指定されている。ハザードマップを確認するとここはぎりぎり危険な地域。
・（委員）8 月 30 日に大雨で休校となった。入谷小学校は体育館を避難所として開設した。児童が在校していない際は市が指揮系統をもって設置する。自宅にいられない人だけが対象となり、不安という理由では利用できない。今回は食料も、エアコンもない中での避難所だった。手厚い対応はできない。2 日間開設したが、利用はゼロだった。
・（校長）休校等についてお互いの動きが分かる連携ができると良い。部会を通じたネットワークを構築したい。災害時、地域の方々が来られた時にそれぞれの役割を果たせるように体制を作っておきたい。

・（委員）スマホの連絡網、学校 HP で周知を行っている。
・（委員）市、県が情報の共有の仕組みを作るべきである。
・（委員）障害のある方の避難の難しさを感じている。いざ避難をするときに必要なのはシステムももちろんだが、まずは人。いかに日頃から顔の見える関係を作っていけるかが大切であり、現実を考えるとまだ難しさがある。→防災の観点からもインクルーシブな社会づくりが必要。
・（委員）避難訓練では実際に児童生徒を乗せて階段を降ろしているのか？保護者も避難訓練を見てみたい。興味のある保護者は沢山いると思う。→児童生徒が乗った状態で車いすごとの避難訓練をしている。今後保護者や地域へ訓練について周知をする。
・（委員）防災について考えなくてはいけないことをマッピングして整理できると良い。全体を見ながら必要なことをピックアップしていく。子どもたちにとっての居住地域、学校のある地域の二つの地域における防災を考える必要がある。教育活動に結び付けることも大切。インクルーシブな社会づくりにもつながるので切れ目ない支援部会との連携も考えられる。
　東日本大震災のときに福島に関わったが、その後どんどん忘れられていると感じる。校内の設備や通学中の被災も含めて必要な対策の確認をしてほしい。

４　学校評価部会
〇学校評価中間評価について（副校長）
・前回の学校運営協議会でいただいた意見を取り入れて修正した学校目標を完成することができた。
・資料としてまとめてあるものは学校での取り組みの一部である。今日はマーカーのある個所に重点を置いて報告する。

〇各校務グループの中間報告について（各グループ総括）
【カリキュラム部】
・（委員）摂食研修会に参加させていただいた。今後もこういう研修の機会があると良い。
・（委員）下校時間が早まることにより、放課後等デイサービスの利用時間は伸びることもある。福祉と連動して進めていけると良い。
・（委員）授業時数は足りるのか？→計算して確認した上で検討している。
・（委員）本校でも時数の見直しをした。教材研究や会議の時間をきちんと確保することで教育活動の充実につなげていきたい。
・（委員）保護者の負担増には気を付けてほしい。アセスメントは教員が行っているのか？海外では普通小学校にも作業療法士が入っている。→作業療法士や教育相談コーディネーターと連携して行っている。
・（委員）実態把握とアセスメントはどう違うか？アセスメントとは何か？→実態把握のためのツールがアセスメント。
・（委員）実態把握とアセスメントは同じと考えられるので「実態把握」で良いのでは。→実態把握で統一する。
・（委員）「専門職」は教員も同じ。自立活動教諭という呼称でよいのでは。特別支援教育の免許を持つ教員は作業療法士や理学療法士に関する知識も持っている。
・（委員）時間短縮に伴うスクールバスの運行はどうなるのか？小学部が高等部に合わせるのは避けるべき。学部により授業時数が異なることをきちんと説明していけると良い。→現在課題として捉え

て検討している。

【指導研究部】
・（委員）医療的ケアについての知識はないが、神奈川県の PTA で大きく話題に挙がっている。医療的ケア、通学支援はなかなか進まない。学校でも取り組んでくれていることが分かった。
・（委員）今年度学校運営協議会への保護者の参加は？→HP で周知しているが今回参加希望はなかった。
・（委員）在宅の方にサニーキッズへの通園を進めているケースがある。「通う」ことの支援は大変と感じている。療育に関わる職員は学校という現場を知りたいニーズがある。
・（委員）小学校の肢体不自由児の通学はどうなっているか？通学支援がないのであれば合理的配慮が必要という要請を出し、市町村が対応する必要がある。裁判が起きないかと願っている。
・（委員）相模原市のお子さんでは校長裁量でスロープの設置をしてくれたケースがある。
・（委員）医療的ケアが重度のために在宅の方はどのくらいいるのか？病院には通院しているのに通学ができないということは、何かしらの問題がある。なぜ出られないのかの評価が必要と思っている。とても心が痛む実情がある。
・（校長）本校の訪問児童生徒のスクーリングはゼロである。代理人申請制度を今年度から始めた。通学距離もネックとなる。人工呼吸器の方が 1 時間かけて通うことには課題があり、学校事情によるケースもある。
・（委員）外に出られないということはなく、鍛えなくてはいけない、活動保障をしたいという医療関係者のジレンマがある。医療的ケアがあっても通学できることを大切にしたい。ICT の活用が障害のある方の学習の充実につながる。→座間支援の ICT 教育の充実に委員をはじめとした医療関係者の協力をお願いしていけると良い。
・（委員）食に関する実態調査について家庭にどう伝え、連携していくのか？→給食だよりにて配慮食も含めたレシピの紹介などの啓発をしている。家庭との連携についても取り組んでいく。
・（委員）小学校としても一人一台端末の活用が喫緊の課題。支援級での活用のために参考にしたい。
・（委員）県はガイドラインを作らないのか？→県に問い合わせたが作らないとの回答だった。→校長会等を通じて県にきちんと要望を伝えていくべき。
・（委員）食に関する実態調査を県としてはしていないのか？栄養教諭のネットワークを活用して県内全体の実態を調査できると良い。
・（委員）座間市の保育園・幼稚園は他地域と比較して医療的ケア児の受け入れが少ない。今年度、座間市に医療的ケア Co を配置した。保護者だけが頑張るのではない医療的ケアのあり方を療育、学校が連携して検討していきたい。
・（委員）51 名の医療的ケアの資格を持つ教員の専門性の担保について、今後も工夫したことを伝えてほしい。

【環境安全部】
・（委員）不審者はとても不安があり、県もきちんと整えてほしいと思う。他市ではオートロックが整っているところもある。
・（委員）防災部会とも連携して進めていってほしい。
・（委員）AED 研修は教員も行っているのか？→毎年実施している。また、AED は毎日動作確認を行

っている。

【支援連携部】
・（委員）今後も連携して、どちらの学校も良い方向に進めるようにしていきたい。
・（委員）センター的機能と連携していきたいと思う。支援する側がしっかりとつながってバトンを渡していくことが本人保護者の安心につながる。
・（委員）重心の方と長年関わっているとどんなことを感じ、考えているのか分かってくる。誰しもいつかは障害を負う可能性がある。他人ごとではないという考えを持ち、理解する力をつけるために一緒に過ごす機会を多くつくっていきたい。
・（委員）インクルーシブな教育、インクルーシブな学校はどう違い、どう関係するのか？国際的な考えとして、インクルーシブな教育システムは全ての子どもたちが学校教育を受けられるシステム。日本におけるインクルーシブな教育システムは日本として完成している。国連はその地域に住んでいるすべての子どもたちが通えるのがインクルーシブな学校、と言っている。日本も制度としてはそうなっている。どうしても地域の学校に通うことが難しい子どもだけが特別支援学校に通うことができると法律で定められている。障害の有無だけではなく、外国籍の方等も含めすべての子どもが通うことのできる学校がインクルーシブな学校と言える。
・（委員）国連より求められた 2030 年までにインクルーシブな学校をつくるために、座間支援学校はどうすすめていくのか？
・（委員）「インクルーシブな学校」を共通言語としてそれぞれの国が工夫していけばよい。
・（校長）本校の言う「インクルーシブな学校」は地域の中でどんな子どもも通う学校という意味ではなく、座間支援学校に通う子どもたち、様々な職員、保護者、障害者雇用の方等、すべての方がお互いの状況を理解して安心して過ごせる学校としてそれを目指すと考えている。地域の方々と交わる中で本校のインクルーシブな学校を発信していきたい。本校はそもそも障害のある子が通う学校なので、意味合いが少し違う。→（委員）「座間支援学校におけるインクルージョンをどう進めるか」と伝える方が混乱しないのでは。流通している「インクルーシブな学校」と混同してしまう。

〇各学部・分教室の中間報告について（各学部長・室長）
・時間の都合により次回に年間の報告としてまとめて行う。資料を参照し、意見があれば委員より後日伝える。

５　事務連絡
（略）